

## クルアンの介 (パート2/2) : その奇 性と言

5.0

明:

クルアンの奇 的美しさと、それに するムスリムの 慕の念。そしてクルアンの言 と、それがイスラ ム文明に及ぼした 史的影 。

より: IslamReligion.com

日 7 May 2010

集日 17 May 2010

ムスリムは、クルアンの 大さと重要性を完全に 信しています。そしてクルアンは通常、「崇高なる」「光 ある」「 なる」といった形容 を伴って言及されます。一体ムスリムがクルアンを朗 し、その を目にし、あるいは に触れる できさえも非常に感 するのは、なぜなのでしょうか？

クルアンの 式は奇 的であり、神 なる美しさと力 さを えています。いかに努力したとしても、人 はその天 の の一 に する短い文章すら くことは出来ないでしょう。この事 は、奇 的なまでの文章の文学的特 と、言 の有 性 その 格と秘められた力 と多分に があります。クルアンは文盲の羊 いできさえもその朗 によって させ、およそ14世 もの、何百万ものごく普通の人々の生活を形作って来ました。またクルアンは、人 史に残るような非常に 大な多くの知 人たちをも育成しました。そして教 のある者たちを立ち止まらせ、敬虔 なる信仰者へと えました。またクルアンは、最も 解な哲学や、 的言 における最も深 なる意味を表 する芸 の源泉でもありました。そして、彷徨していた人 の 族を共同体と文明 のもとにまとめたのです。その痕 は、最も 着な 察者にとってさえ 著なものであるに い ありません。

クルアンの朗 は、ムスリムにとって最も崇高で 的な任 です。それは 大部分の非アラブ 人信者がそうであるように クルアンの言 が知的に理解不可能な 合でも、 わりません。

ムスリムはクルアーンを、出来るだけ美しく朗読しようと望みます。そして?????

(正しい朗読)の学は、一つの科学にまでなりました。特に声の美しさを損なわずに朗唱するでも、朗読の特定の原則是守らなければなりません?????

(クルアーンを「守る」者)とは、すなわちそれを全暗している人のことで、非常な尊敬を受けています。そして少年少女は幼少からモスクに送られ、クルアーンを暗読するのです。

また、その神聖な特性を損なわないためにも、クルアーンはかたが偶然踏みつけてしまったり、その上に座ったり、あるいはぞんざいに扱われてしまう恐れのある所に放置されぬよう、保護を付けなければなりません。また、何かを上に載せるための踏み台として物を利用することは非常に忌避されることですから、クルアーンについては言うまでもありません。ムスリムは、クルアーンを汚さないには、それを本棚か机に置きます。一部の人々は保存のため、そして身体が清らかな状態にはないにその必要が生じたにも触れることが出来るよう、自分のクルアーンを慎重に布で包んでいます。またムスリムは、クルアーンが他の本より上に置かれることを嫌がりますし、それをただ放ったらかしにすることを避けます。またクルアーンは、人が排尿したり排便したり、あるいは大きな穴(トイレ、くず山、羊小屋、下水道など)の存在する所に携することを強く禁じられています。そのような所では、クルアーンを汚すことさえされません。

## クルアーンの言

クルアーンの世界は、アラビアと密接に結びついています。アラビアは、ヘブライやアラム(イエスがしていた言)と同様、セム系言集に属します。クルアーンはそれ自身、「アラビアの典」と特別な定規をしています。そしてそのメッセージは、どんなヨーロッパの言造とも根本的に異なる、ばれた言の合造へと嵌められるのです。セム系言の内部理は、インドヨーロッパ族(英、ラテン、サンスクリット、ペルシャなど)のそれとは非常に異なります。アラビアの全ての言は、いくつかの名や形容と共に、3つ、4つ、または5つの子音からなる語源的起源に由来することが出来ます。そしてその子音は、12の異なる形の式にまで派生格されます。これが3文字根と呼ばれるもので、特定の語はそこに母音や短母音を入さ

れ、そして接尾辞と接 辞を付加されることによって作られるのです。このような 根は、生を与えられる、つまり母音によって有声化されるまで、「死んだ状」すなわち 音不可能な状 にあります。そしてこのような位置づけゆえに、アラビア の基本的意味は 々になる方向において 展するのです。に 根は「肉体」、そして母音化は「魂」と描写 されます。あるいはまた、その 根から巨大な 木が成 するのです。アラビア の の意味と、そこに した概念を理解することなしには、そこに する意味の かさや、 を英 することの困 さ、そして元来が明 であるアラビア の の相互 を正しく理解することは不可能です。

クルア ンの崇高な言 に するムスリムの 倒は、アラビア 文法及び修辞学の学 へと 展しました。それは非アラブ人がイスラ ムに入信してその数が 大し、 示の言 の特色について 学 する必要が生じた に 著でした。クルア ンは翻 不可能であるという信念は、彼らイスラ ムへの入信者に して、アラビア 学 か、あるいは少なくともアラビア文字学 を不可避 なものとなせました。しばしばこの 象は、アラビア半 以外の全アラブ国家がそうであ ったように、事 上 々の国家にアラビア を自国 として 用させることになりました。また このことは、アラビア 文字を受容した他の言 (例えばペルシャ、トルコ、マレ など多 くの言 ) に し、巨大な影 を及ぼしました。またクルア ンの言 と表 は、非アラブ人や非ムスリムのアラブ人の でき、高尚な文学の中ではもちろんのこと、日常会 においても使用されているのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/371>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。